

鷺浦町・幼・小・中運動会開催

双鷺洲

鷺浦コミュニティセンター日より

台風13号の接近で開催が危ぶまれた運動会が曇天の中で開催されました。今年も国旗を先頭に中学生、小学生、幼稚園、保護者、体協他が整然と入場し、鷺浦教育実践の姿を関係者、町民に示していたいただきました。台風のため、PTA・町民種目ができなくなったのは、残念ですが、やむを得ないことでした。幼稚園の初々しさ、小学生の巧みな一輪車演技、中学生の範を示す行動は鷺の教育、成長ぶりをよく現していただきました。

地域住民の応援も多く、思わぬ人を応援席で見つけ、交わりつつある地域風土を感じさせられました。一生懸命汗を流し、頑張った鷺っ子一人ひとりに拍手を送り、地域をしっかり見つめていきましょ。



※本誌にまはホランテイヤガイド発足
7月24日、この会を発足し、8月30日会員による島内一週の勉強会を行いました。
活動としては①島内外のウォーキングする回体の道案内及び見どころ等、簡単な説明を致します。希望される方(団体)は申し込み下さい。
い。申込先 鷺浦コミセン (8715) 又は土田 (8715) 653) 活動② 今後、島内の人達に郷土史、風土島の良さを伝承する活動もして行きたいと考えています。頑張りますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

まず、希望される方(団体)は申し込み下さい。
い。申込先 鷺浦コミセン (8715) 又は土田 (8715) 653) 活動② 今後、島内の人達に郷土史、風土島の良さを伝承する活動もして行きたいと考えています。頑張りますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。



俳句

鎮物や 松茸の芳 磯ちゃんこ 山本 巧

台風や水おそろしき人を香む
青空の覚えて雨降る九月かな
鶏頭の色あざやかに晴うまし
あかんたれ

短歌

佳子さまに弟さんが出来ました
愛子さまにも弟を、・・D生

三地区敬老会

9月10日(日)五藤市長を迎えて須ノ上区・向田区の敬老会・23日(土)台風13号で延期になった佐木区の敬老会が開催されました。参加数は須ノ上区57/74・向田区51/118・佐木区55/105 総計163/297(出席率55パーセント)でした。

三地区とも、区役員・女性会等の皆さんの工夫、名演技で長寿と健康を御祝いしました。芸能豊かな人材が揃っているのは素晴らしいことです。

ところで、各種団体とも世話を焼く後輩が減少し、再度、敬老者に出動をお願いする現実が起きています。まだまだ、体が動ける限りは現役ですぞ?。これからも宜しくお願いします。



消防団からの依頼をせ

「救急艇かもめ」が修理などで利用できない時、代替艇により救急搬送を行っています。その場合、利用者が代金を支払っていましたが、今回改訂により、救急搬送確認書の書類を提出すれば、代金は市(消防署)が直接、船舶所有者に支払うように変わりました。確認書につきましては分団長、各部長に相談下さい。

※兼浦町民からの要望

代替艇の依頼は分団長でなく、消防署が行って欲しい。

【寸書(後編)】

宛

島内のあちこちに放置された廃車が島の景観と品格を下げています。水い問、自分の為に働いてくれた愛車を、不要になったら雨ざらし放置するのはまともな行為ではありません。必要経費を出費して取りあげるのが所有者の義務です。

(A)

・・・架橋の会でも課題として取り上げています。・・・

【断】

最近飲酒運転による人身事故が全国で多発しています。島だからとて、飲酒運転が黙認される筈はなく、社会のルールを破ってはいけません。人前で物が云えないし、こども達を諷める資格も問われます。

堂々胸を張って歩ける島民になる為にも飲酒運転は絶対に行きません。・・・各団体からも同様な決意が届いています。・・・

(B)

トライアスロン大会

第17回さきしま大会終了後、鉄人より14通の感想文が届きました。その中で、神石高原町山本幸士さんからびっくりする参戦記・同行記が届きました。町民の皆様にも是非読んでいただきたいため、今月臨時号を発行します。選手がどんな思いで、あの苦しい道のりを走破しているのか、どんな感動を受けているのかがとても良くわかる内容です。

同時に、三人のこども達と同行した奥さんの記行文もありますので、紹介したいと思います。

わくわくレタ!

山本生美

行ってきました。第17回トライアスロンさきしま大会。大会当日8月27日は本当に暑い1日で、終わった時には、私が出場したわけではないのに、すっごく疲れてしまいました。

数年前、NHKで「夏の王様」というドラマがありました。今をときめくオダギリジョーさん主演

で、広島県のある島のトライアスロン大会当日を舞台としたドラマでした。でも、この舞台となった島に、しかもトライアスロンの応援で行くなんて夢にも思っていないませんでした。

6年前の「月刊 地域づくり」という雑誌に、当時のトライアスロンさきしま大会の実行委員長白須宏治さんの手記がありました。その中に、第1回大会を開演準備するにあたって島民の皆さんが「ゴミとされただけが残るような大会にすまい。やってよかつた」と実感できる大会にしよう」という思いで準備をされた事。

初心者でも出場できる大会を早く目指し、当初、自転車は「ママチャリ」でもOKにした事(今は楽ロードレーサーのみ)。しかし、第10を迎える前に(雑誌の出る前年の)「島の活性化につながるっているのか疑問」という意見があり、続けていくかどうか、議論した事。などを書いておられました。でも、この大会を継続されたことに、私は心から感謝をしています。この大会に夫が参加して、私自身得るものがたくさんありました。じつは、スイムに挑んでいる夫を応援しながら内心、心配で心配でたまりませんでした。(続)